

子どもの代理 真剣に伴侶探し

親同士が「お見合い」

NPOが佐賀市で交流会

子どもに代わって親がお見合いをする「親御さんの交流会」が七月上旬、佐賀市内で開か

親心？熱心に売り込み

15人が参加、4組成立

れた。晩婚化が進み、「なぜ自分の子は結婚で
きないのか」と悩む親たち。代理見合いは子の
将来を思っている親心か、子どもからすれば親離
れできていない象徴か。当の親たちは子ども以
上に結婚を重くとらえ、相手探しに真剣だ。

福岡、佐賀の結婚相談
業者らでつくるNPO法
人「宇佐申比倶楽部」（仲
野初代会長）が二年前か
ら福岡市を中心に交流会
を行っている。

今回の交流会には四十
代―七十代の親たち十五
人が参加した。子どもた
ちは三十代後半から四十
代前半。忙しくて出合い
がなかったり、結婚に焦
りながらも積極的になれ
ないなど理由はさまざま
だ。「自分で探せない。
いいと思った人を紹介し
て」と娘をよから頼まれ
た母親もいた。

交流会では「息子の代



主催者を囲み、交流会で子どもの結婚相手を探
す親たち＝佐賀市のルネッサンスホテル創世

愛情が最優先

佐賀大文化教育学部
の赤星礼子教授（家族
関係学）の話 結婚は
当事者同士の気持ち、
愛情が最優先されるべ
きで、子どもの主体性
のなさが気になる。親
子でどうすれば結婚で
きるかをしっかりと話し
合うことが先決ではな
いか。ただ、親同士が
気に入って勤めた縁談
なので両家、嫁姑（し
ゅうとめ）関係のトラ
ブルが少なくなるメリ
ットもあるだろう。

公務員の息子とを
つ父親は「無口だが芯は
強い」とアピールし、「共
働きできる人」を希望。
息子の職場には女性が半
数いるが、結婚へ向けた
一歩が踏み出せないとい
う。県内在住、寺に嫁げ
る人、高学歴などを希望
したい」と話す。（藤生）

する親もいた。
今回は四組成立した。
ある親は「明るく、穏や
かな親かを重視した。そ
ういう家庭の子は優し
く、思いやりがあるので
は」と話し、この人の
子なら」と安心感が増し
たという。

後日プロフィールと写真
を交換し、子どもが同意
すれば主催者立会いで見
合います。これまで延べ
四百人が交流会に参加
し、二十五組が結婚した。
同倶楽部の江頭恵美子
さんは「世話好きな上司、
近所の人が減り、見合い
の機会が減った。和やか
な会なので、親同士気軽
に話せるのがいい。結婚
まで責任を持って世話し